



いわき市

市長記者会見

令和5年5月25日



いわき市

案 件

1 令和5年いわき市議会6月定例会の提出案件について

いわき市 物価高騰対策2023の概要



いわき市

いわき市物価高騰対策2023

長期化するエネルギー・食料品価格等の物価高騰が生活者や事業者に深刻な打撃

予断を許さぬ物価高騰から市民生活や地域経済活動を守るため、市内経済関連団体等からいただいた御意見等も参考にしながら、
本市の実情に応じたきめ細やかな支援・対策を幅広い分野において **機動的に展開**



個別事業の概要



(主に新規・拡充事業)

※その他の事業については、令和5年度6月補正予算(案)の概要を参照。

Ⅱ 子育て世帯に対する支援

1 小・中学校における学校給食費の高騰対策

1億 3,837万 4千円

食料品価格等の高騰が続く中、子育て世帯の経済的負担を増やすことなく、市内小・中学校において、質や量を保った給食の提供継続を図るため、食材料費高騰分相当額を支援する。

[担当課:学校支援課]



2 学校給食魚食普及推進事業費

2,413万 3千円

物価高騰が続く中、本市産水産物の消費量維持・拡大を図るため、学校給食に本市産水産物を活用した食材を提供する。

給食提供回数	既存事業分	今回追加分	年間合計
	9回分	9回分	18回分

[担当課:水産課]



学校給食費の高騰対策として **合計 1億 6,250万 7千円** の支援

既存事業(第3子以降無償)を含めると、今年度全体で **約2.8億円** の学校給食費支援

小学生は約600円/月(第3子以降は負担なし)、中学生は約700円/月(第3子以降は負担なし)相当を助成

IV 農林水産業に対する支援

1 新規 畜産農家緊急支援事業費補助金

4,942万 8千円

飼料価格の高騰により事業経営に影響を受けている畜産農家の負担軽減や、経営の安定化を図るため、市内畜産農家に対し、飼料価格高騰分相当額を補助する。

[担当課:生産振興課]



区 分	補 助 単 価 / 頭
乳 用 牛	22,000円以内
肉用牛（肥育）	10,000円以内
肉用牛（繁殖）・豚	2,000円以内

2 拡充 林業・木材産業等緊急支援事業費補助金

6,331万 6千円

原油価格の高騰により事業経営に影響を受けている林業・木材産業等事業者の負担軽減や、事業経営の安定化を図るため、市内事業者に対し、燃料費高騰分相当額を補助する。

[担当課:林務課]

拡 充 内 容

クレーン付きトラックの作業用燃料費
を補助対象経費として追加



区 分	補 助 単 価
A 重 油 灯 油 軽 油	27円以内/ℓ

1 新規 中小企業等経営コスト削減支援事業費補助金

1億 2,500万円

エネルギー価格等の高騰により影響を受けている事業者の経営コスト削減を図るため、市内中小企業等に対し、省エネルギー効果の高い設備の更新に要する経費の一部を補助する。

[担当課:産業チャレンジ課]

《例:事業費450万円の場合(中小企業等)》



事業者負担額 50万円

県の「中小企業等経営コスト支援補助金」に市独自に上乗せ

補助対象経費	補助率・上限
次の補助対象設備の更新に要する経費 ① 高効率照明(LED等) ② 空調設備 ③ 電気冷蔵庫・冷凍庫 ④ 機械設備等 ⑤ フォークリフト等	① 中小企業等 2/3以内(上限100万円) ② 小規模事業者 3/4以内(上限 25万円)

2 新規 生産性向上・賃金引上げ応援事業費補助金

1,200万円

市内事業者の賃上げ・業務改善など労働環境の整備を推進するため、賃上げ環境の整備等を行う市内中小企業等に対し、設備投資等に要する経費の一部を補助する。

[担当課:産業チャレンジ課]

《例:事業費700万円・国助成額600万円の場合》



事業者負担額40万円

国の「業務改善助成金」に市独自に上乗せ

補助対象経費	補助率・上限
国の「業務改善助成金」を活用し、次の生産性向上に資する設備投資等に要する経費 ・機器・設備の導入 ・経営コンサルティング など	1/10(上限60万円) (※)国助成額の1/10

(※)国の「業務改善助成金」の助成率:3/4~9/10(事業場内最低賃金額等により異なる。)

VI 地域公共交通・地域観光業等に対する支援

1 拡充 観光業需要回復支援事業費 1億 1,253万円

物価高騰により影響を受けている観光事業者等の事業経営の安定に向け、市内における観光需要の回復を図るため、市内宿泊施設の宿泊割引クーポンを発行するほか、インバウンド需要の取込みに向け、いわきサンシャインマラソンを活用した誘客を促進する。

[担当課:観光振興課]

● 宿泊割引クーポン

割引額	枚数
2,000円	2,000枚
5,000円	5,000枚
10,000円	4,500枚
合計	11,500枚



拡充内容 インバウンドの誘客促進 ▶ サンシャインマラソンへ台湾から100人を誘客(予定)



2 観光バスツアー誘客事業費 1,912万 6千円

物価高騰により影響を受けている観光事業者等の事業経営の安定や、観光交流人口の拡大を図るため、市内観光地等を訪れるバスツアーを実施する旅行会社等に対し、貸切バス借上げに要する経費の一部を補助する。

[担当課:観光振興課]



参加者数	補助単価	
	日帰り	宿泊
10～19人	25,000円	50,000円
20～29人	40,000円	85,000円
30人以上	50,000円	100,000円



いわき市

案 件

2 県内初 登録防災士による「逃げ遅れゼロ」を目指した 取組みなどについて

「逃げ遅れゼロ」「災害関連死ゼロ」の実現には・・・

➡ 初動対応が最も重要

➡ 自助・共助の力を高めることが必要

目標達成のための4つの柱

- 1 全世帯を自主防災組織がカバー(R4. 4月現在 86%)
- 2 各自主防災組織に防災士を2名以上配置(R5. 3月現在 60組織(15%))
- 3 各自主防災組織において、年に1回以上訓練を行う
- 4 各自主防災組織は、地域の特性を踏まえ地区防災計画を作成する

これらの目標達成率100%を目指す

1. 防災士養成講座の開催について

- 地域の防災リーダーの育成を目的として「防災士養成講座」を開催(平成27年度～)
- これまで447人が「防災士」の資格を取得

自然災害の頻発化・激甚化



高齢化や人口減少の進行

より迅速な災害対応や被災者支援を行う
体制づくりを進め、市の防災力強化を図る。

市内高等教育機関との連携・協力



「防災士養成講座」の受講対象者や実施回数を拡充
(令和4年度～)

(参考)拡充内容

項 目	令和3年度まで	令和4年度から
受講対象者の範囲	・自主防災組織や消防団等の構成員 ・市職員	左記に加え、 ・市内の中学校、高校、大学（高専、短大を含む）、専門学校に通う学生 ・市内の企業に勤務されている方 ・防災活動に関心のある市民
実施回数	年1回	年 2回
受講対象者数	70人	110人 (55人×2回)

第1回養成講座の受講者募集について

① 開催日時

1日目 令和5年8月26日（土） 午前10時～午後6時20分

2日目 令和5年8月27日（日） 午前10時～午後7時20分

※ 最終日に防災士取得試験を実施。

2日間の受講、事前課題の提出、救急救命講習の修了が必要

② 会場

いわき市文化センター4階 教職員研修室（平字堂根町1-4）

③ 定員

55名（超過した場合は、抽選）

④ 募集対象

- ・ 市内の中学校～大学(高専、短大を含む)、専門学校に通う学生
- ・ 市内の企業に勤務されている方
- ・ 防災活動に関心のある方

⑤ 応募要件

登録防災士として、次の活動に参加いただけること。

- 市の研修(年4回程度)や市総合防災訓練(7月、11月)への参加
- 地域の防災講演会や講習会での活動(講師として)
- 災害発生時において、市の要請に基づき、次の活動に参加
 - ・ 隣近所の高齢者等への避難呼びかけ
 - ・ 避難所の開設及び運営支援
 - ・ 発災直後における被害状況の把握
 - ・ 市災害ボランティアセンターにおける活動支援 など

⑥ 受講費用

無料(市が全額負担)。ただし、受講会場までの交通費(駐車料金を含む。)、食事代、資格認証手続きに必要な証明写真代については、各自負担。

⑦ 講座の実施機関(県内の養成研修機関は次の2法人のみ)

- ・ 独立行政法人国立高等専門学校機構 福島工業高等専門学校
- ・ 学校法人昌平黌

⑧ その他

- ・ 合格者を対象として、防災士としての活動に必要な知識等の習得を目的として「フォローアップ研修」を開催
- ・ **自主防災組織等の構成員対象の第2回講座は、10月に別途開催**

2. 登録防災士の取組みについて

高齢化や人口減少により、自主防災組織の構成員確保が困難に
市民の迅速かつ安全な避難体制の維持に向けては、
さらなる「共助」の担い手確保が必要



「登録防災士」制度の創設(令和4年8月)
登録者 **200**名(令和5年5月現在)

潜在的な
有資格者の活用

● 期待される活動

- ・ 市が行う研修への参加、市総合防災訓練への協力
- ・ 地域の防災講演会や講習会での活動(講師として)
- ・ 災害発生時における避難所の開設・運営支援
被害状況の把握、市ボランティアセンターの活動支援
- ・ その他、被災者支援のため市が必要と認める活動

令和4年度の活動内容

活 動	活動日	内 容
スキルアップ研修 (2回開催)	R4.10.15	最新の防災に関する知識・技能等の習得と市の施策への理解を深めること、防災士同士のつながりづくりを目的として実施 ・市の施策説明 ・登録防災士の活動について ・意見交換
	R5.1.22	・地区防災マップ作成に係る「まち歩き」
第2回市総合防災訓練参加	R4.11.26	市内各地区において実施した防災訓練の見学
市役所出前講座見学	R4.12.10	市職員による防災に関する出前講座の見学
地域防災力向上研修	R5.3.12	・講話（東日本大震災、福島第一原発の復旧状況） ・事例紹介（共助力向上のための取り組み）

3. 令和5年度いわき市第1回登録防災士スキルアップ研修

① 開催目的

- 避難所の開設・運営に必要な実践的な知識・技能の習得し、災害時における避難所の開設・運営活動の中心となる人材の育成

② 開催日時・会場

- 令和5年5月27日(土) 9時30分～12時
- 平第四小学校(令和元年東日本台風の被災地区)

③ 参加予定者

- 登録防災士のうち、参加申込みのあった**57名**(5月17日現在)

④ 研修内容

● 避難所の開設・運営方法について

【内容】

- ・ 避難所開設・運営の基本ルールについて
- ・ 避難者の受付方法(体調確認、避難者名簿への記入など)
- ・ 避難所のレイアウトの考え方
(居住スペース、運営・管理スペース、物資配付スペース等)
- ・ 資機材の取扱い
- ・ 非常用食糧等の確認
- ・ 要配慮者や体調不良者への対応について

● 災害時に役立つ知識・技能

- ・ 身近にあるものでできる避難所生活で便利なグッズ作成

<学校の校舎を活用した一時避難場所の確保に向けて>

河川洪水災害では、タイムラインに基づき、浸水想定区域外への早めの避難が基本ですが・・・

平窪地区など河川氾濫・決壊時に避難可能な高台等が付近にないケースも想定

- ・自動車による一時避難場所：好間工業団地内の事業者の協力(約1,650台分)
- ・JR赤井駅前の事業所の協力(110人分の避難場所)

<現時点での課題>

逃げ遅れた場合等における
緊急的な垂直避難場所の確保

校舎活用の場合、より多くの
運営スタッフの確保が必要

<解決策>

浸水想定区域内にある学校等の校舎を
緊急的な一時避難場所として確保する取組み
(今年度は「平四小」をモデルとして実施)

自治会、自主防災組織、登録防災士、学校、市職員等の連携による避難所運営体制の構築
平時から顔の見える関係を構築し、校舎の利用スペースや災害時の役割分担等を共有

今後の進め方

- 関係者による運営組織を設置し、以下の事項について検討
 - ・ 組織や発災時の役割分担の検討
 - ・ 校舎使用スペースや使用ルールの検討・調整
 - ・ 緊急時の施設利用の手順等の検討
 - ・ 市災害対策地区本部や避難者代表との連絡調整 など



- 防災訓練を通じて上記の内容について検証、修正等



他の浸水想定区域等への水平展開

逃げ遅れゼロの実現を目指す



いわき市

案 件

3 令和5年度減塩食普及プロジェクト「いわきひとしお」 減塩レシピ開発に関する新企画の実施について



1.令和5年度の減塩食普及プロジェクト「いわきひとしお」



Project 1 商品・レシピ開発

- 減塩商品の開発・販売
→地元野菜・常磐もの等の活用
- 減塩レシピの開発  **Pick up**
→選択でできる減塩メニューの提供
→レシピブックの作成・配布
→スーパー・飲食店での企画販売など

おいしい“減塩食”を食卓に！

Project 2 ブランディング

- ロゴ認証制度
→ロゴマーク活用の推奨
- 「いわきひとしおの日(毎月17日)」
→減塩食を推奨
- 減塩給食の提供
→学校給食での減塩献立の提供

“減塩”を意識を高める！

Project 3 官民連携企画

- スーパー×食品メーカーとの連携
→減塩コーナーの設置
(減塩食の販促・レシピ紹介)
- 市内事業所との連携
→社員食堂での減塩化
→市内飲食店での減塩食の提供

官民連携での“減塩”推奨！

Project 4 情報発信等

- 「いわきの極意」HP、SNS等を活用した情報発信
- 広報いわき「ひとしお通信」での情報発信
- チラシ配布、スーパーでのPOP設置による減塩食の普及啓発
市内外に“減塩”を伝える！





2. 庁内連携プロジェクト「ひとしおLab（ラボ）」について



減塩食普及プロジェクト「いわきひとしお」の取組みの一環として、多世代の市民に対する、食・栄養からの健康づくりを効果的に推進するため、市の各分野で活躍する“栄養士”が集い、これまでの業務で培った知見やノウハウを活かし、減塩レシピの開発やレシピを活用した各種企画を実施する。

「いわきひとしお」プロジェクトとは

“減塩”による 市民の高血圧予防・改善につなげることを目的に、地場産品を活用した 減塩商品の開発や減塩食のPR活動に取り組んでいます！

コンセプト

地産地消 × おいしい × 健康
～身近な暮らし(食)から健康へ～

ひとしおに込めた3つの思い

いわきの人と塩	塩がなければ人は生きられない。いわきの人と塩の関係を考え直す。
ひとつまみの塩	ひとつまみ分の塩でいいから減らしていきましょう。
喜びひとしお	減らした分、いわきの食材が輝きます。暮らす喜びが大きくなる。





3.取組内容



減塩レシピを開発し、市民の食卓等での減塩食の普及促進につなげることを目指し、アイデアソンの手法を用いて取り組む。

アイデアソン

テーマ：「減塩レシピ開発」



減塩レシピの開発



減塩レシピブック作成



減塩レシピの提供
(学校・保育給食)



小売店との連携
による商品化



~~減塩のためのレシピ~~

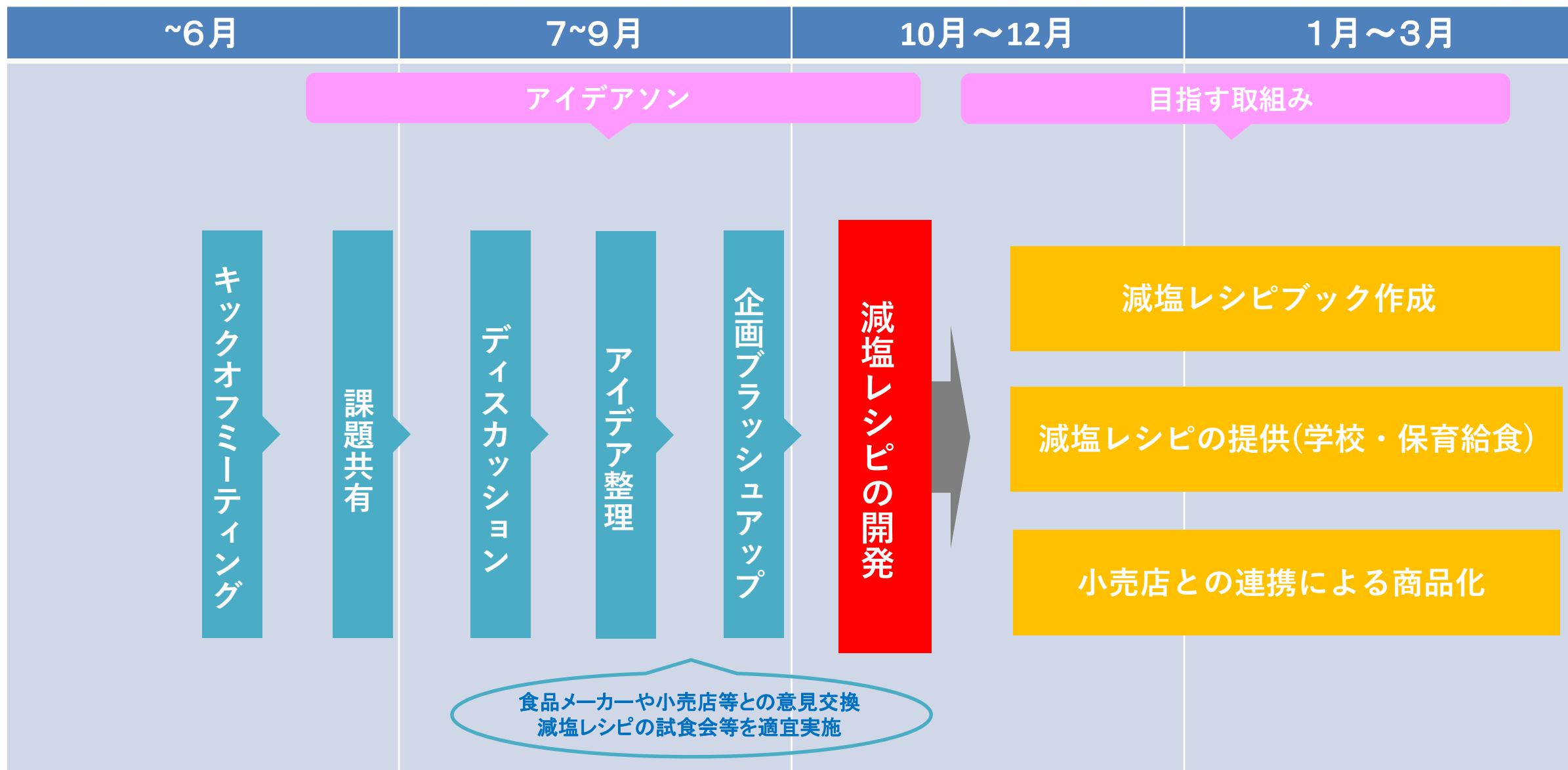


「食べたくなる×おいしいレシピ」が、
結果として“減塩”であった。

～無意識に減塩できる環境をつくる～



5.今後のスケジュール





減塩レシピの開発過程において、
報道機関の皆様も含めた試食会を計画しています。
詳細については、日程が決まり次第、別途お知らせします。

